

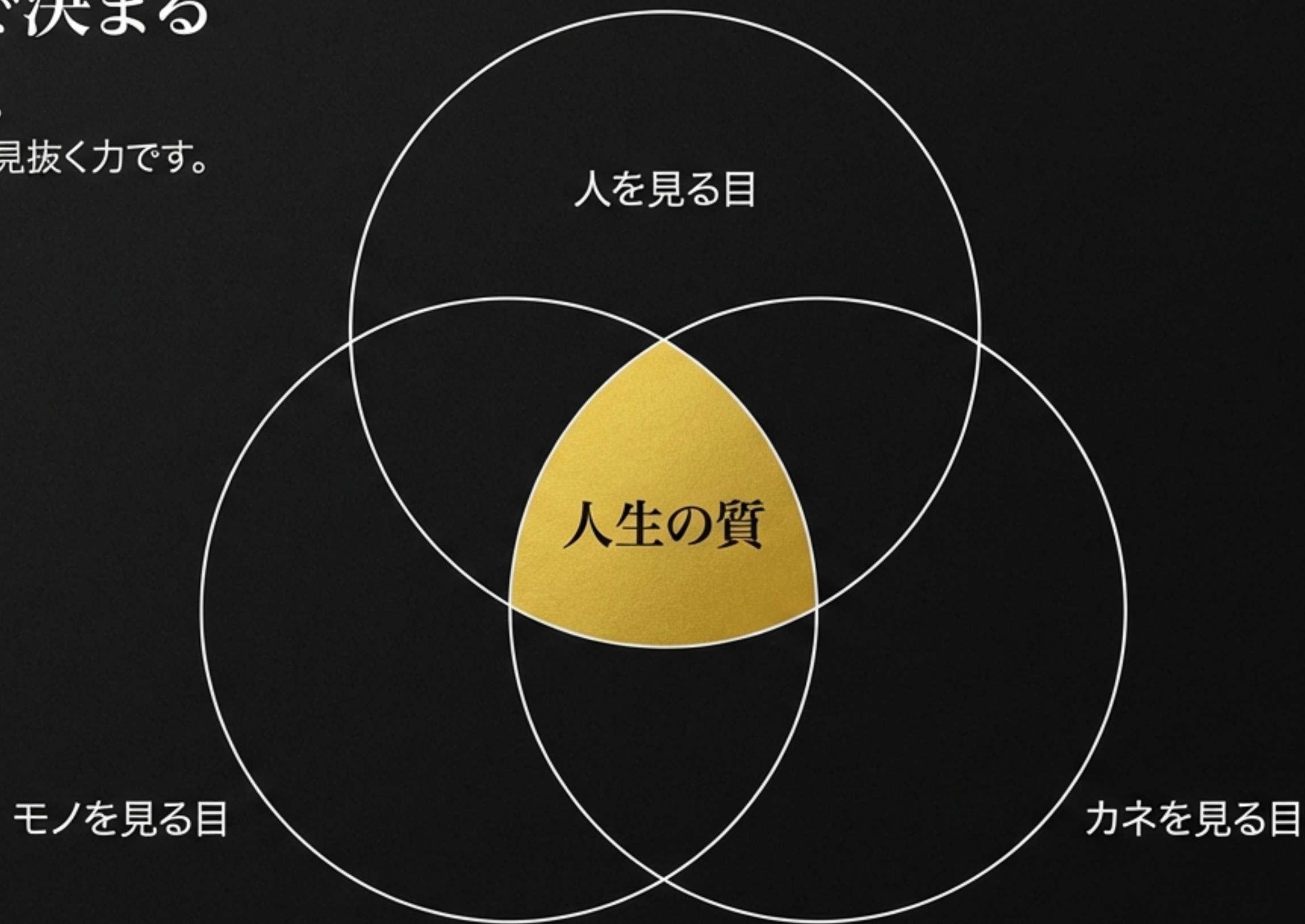


「目利き」という力

価値を見抜く者だけが自由になる

すべては「目利き」で決まる

目利きとは単なる知識ではありません。
人生の質を根底から左右する、本質を見抜く力です。



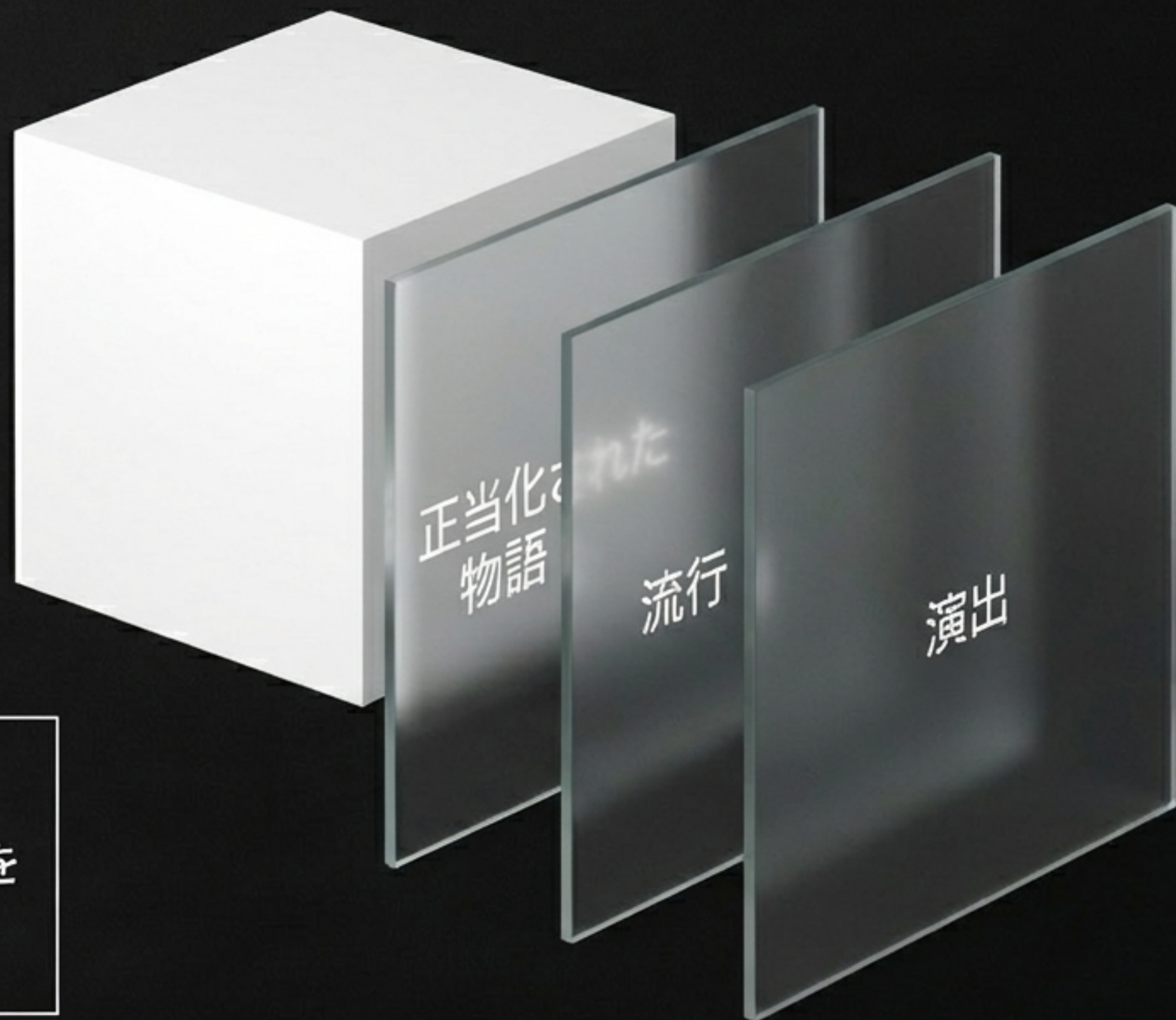
資本主義の罠：価格 ≠ 価値

本来の価値 + マーケティング・物語 = 価格



資本主義社会において、価格と価値は必ずしも一致しません。
本来の価値に対して付加価値が乗り、それが利益率となります。

「物語」が売られる時代



マーケティングとブランディングは本来、価値を伝える技術です。しかし現実には、「価値以上の価格を正当化するための物語」として使われています。

騙されているのではない。



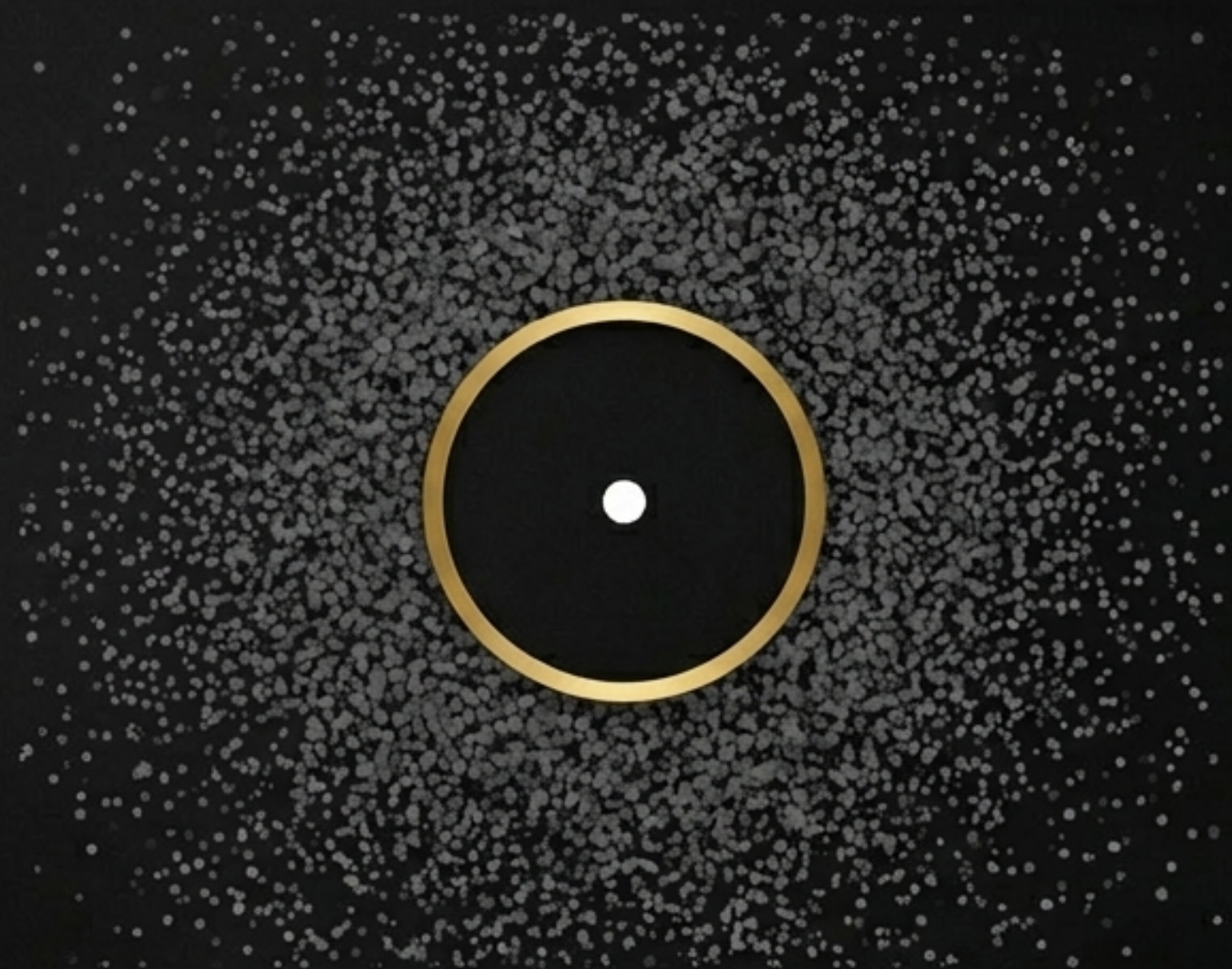
「価値以上の価格を払うこと。
それは見抜けなかった代償である。」

- これは資本主義の公理である。
- 批判してもルールからは逃れられない。
- 適応するために「目利き」が必要になる。

情報格差から「質」の格差へ



【過去】 情報の時代
知識を持っている者が勝つ。



【現在・未来】 AIの時代
情報は誰でも手に入る。真実と事実、演出と本質を切り分ける「質の差」がすべてを決める。

AI時代の分岐点：自由になる者、消耗する者

	見抜けない者	目利きのある者
情報処理	量を追い、情報に振り回される	質を見極め、本質だけを抽出する
価格への反応	物語や演出に価値以上の価格を払う	価値と価格の一致を瞬時に見抜く
判断の基準	表面的な論理と流行	自らの経験と感覚
最終的な結果	無駄に消耗し続ける	豊かさが持続する

目利きの磨き方：絶対法則

答えは一つ。「一流に触れ続けること」

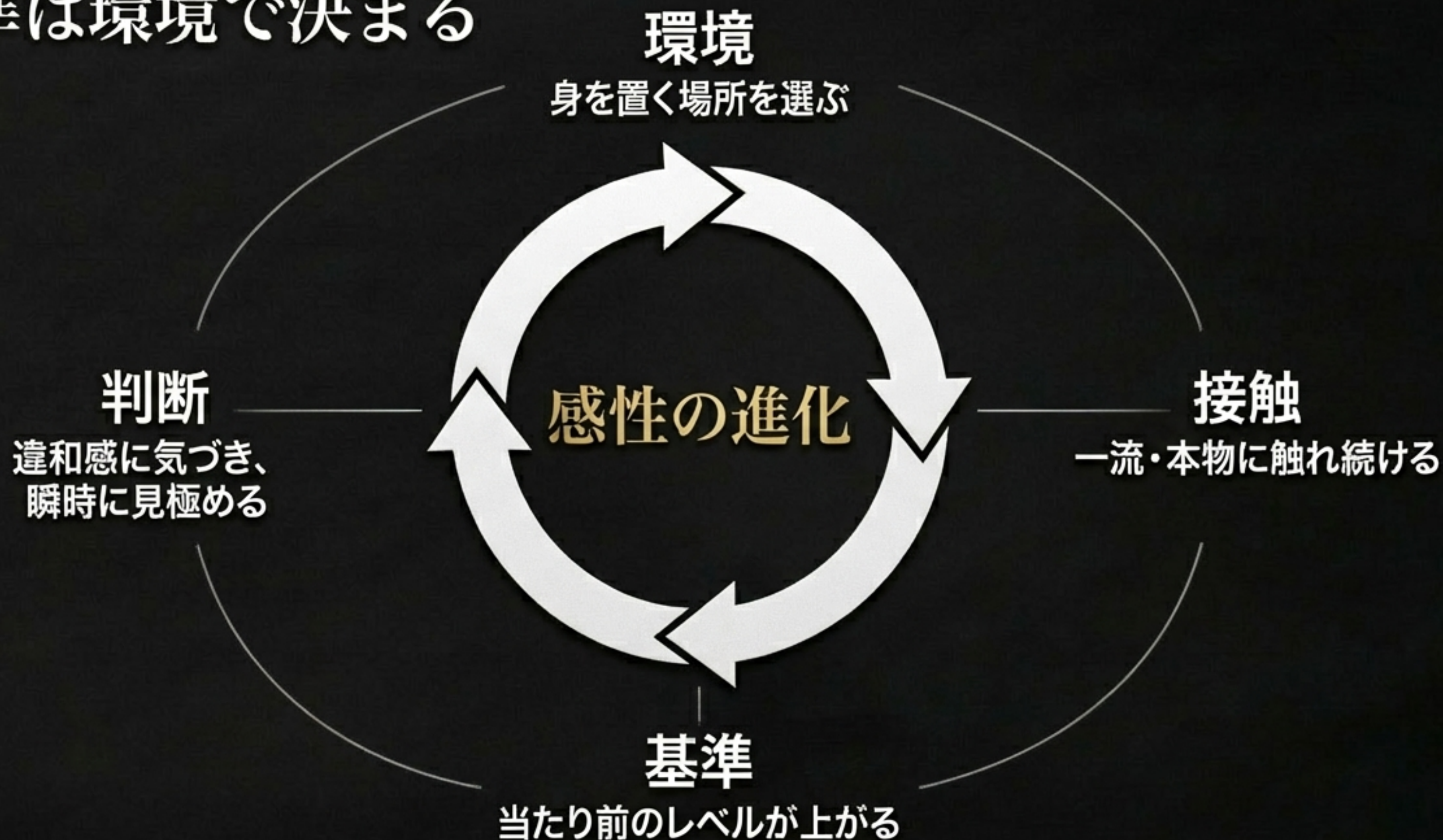
1. 旬に触れる

2. 英気を養う

3. 本物に触れる

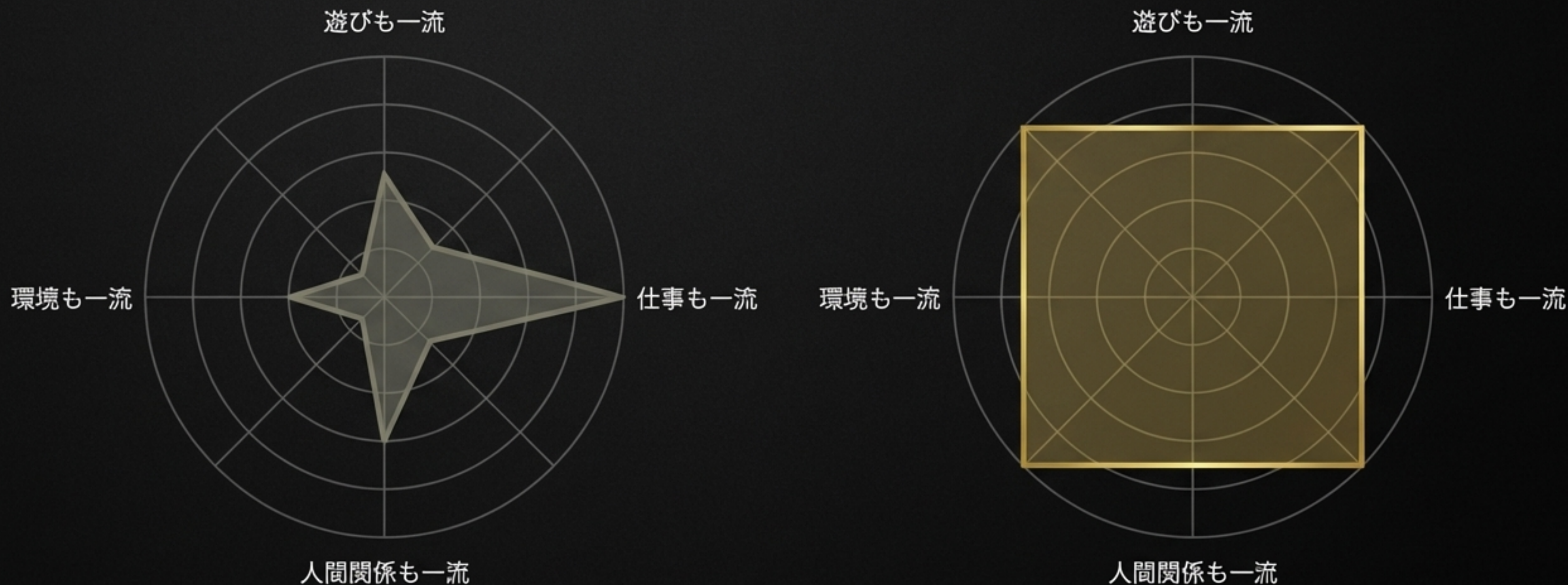
安いものばかり見ていれば安い基準しか育たない。
浅い情報ばかり見ていれば浅い判断しかできない。

基準は環境で決まる

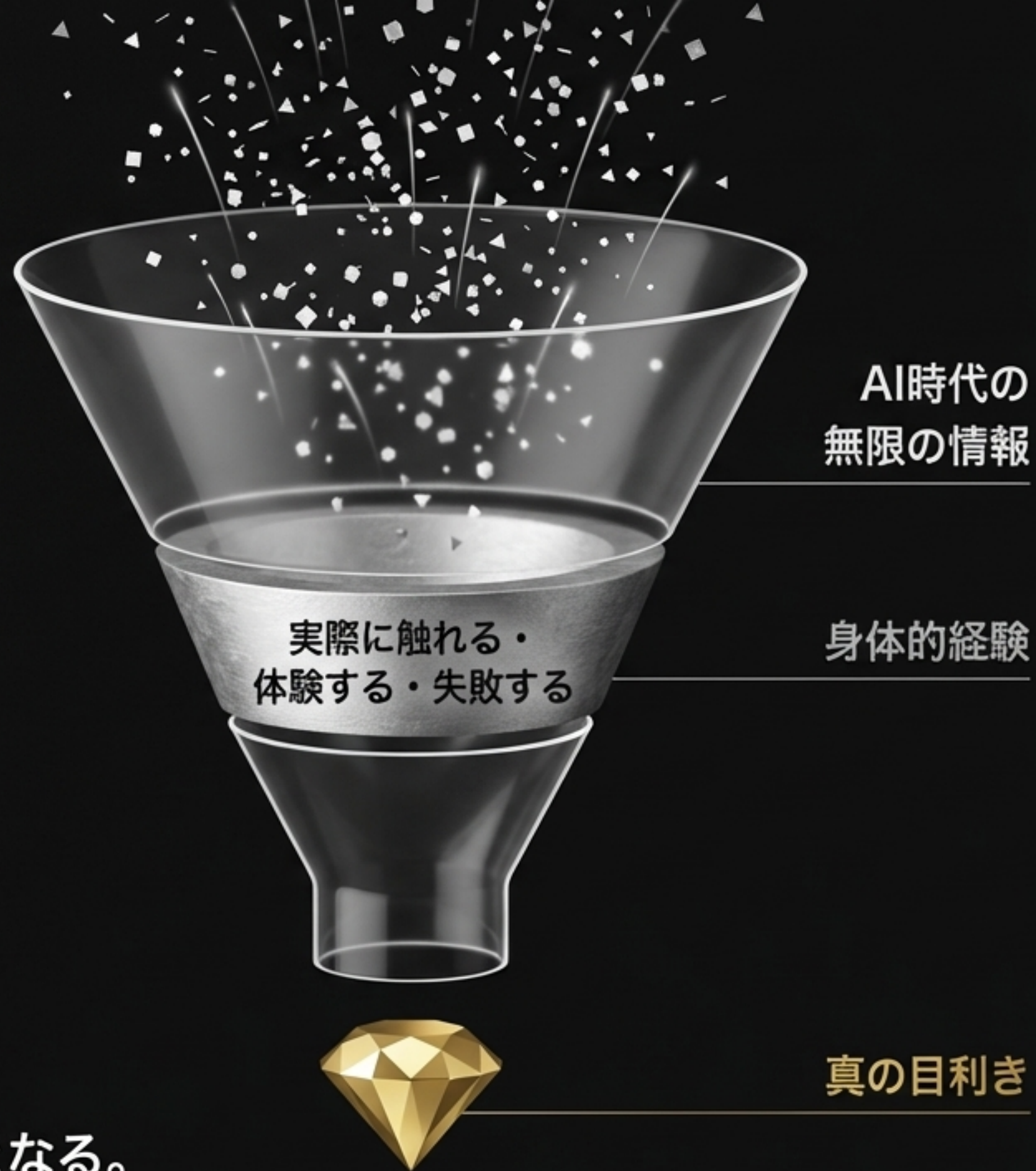


分野を分けない

すべては連動しています。一つだけ高めても、全体の精度は上がりません。妥協はすべての基準を引き下げます。

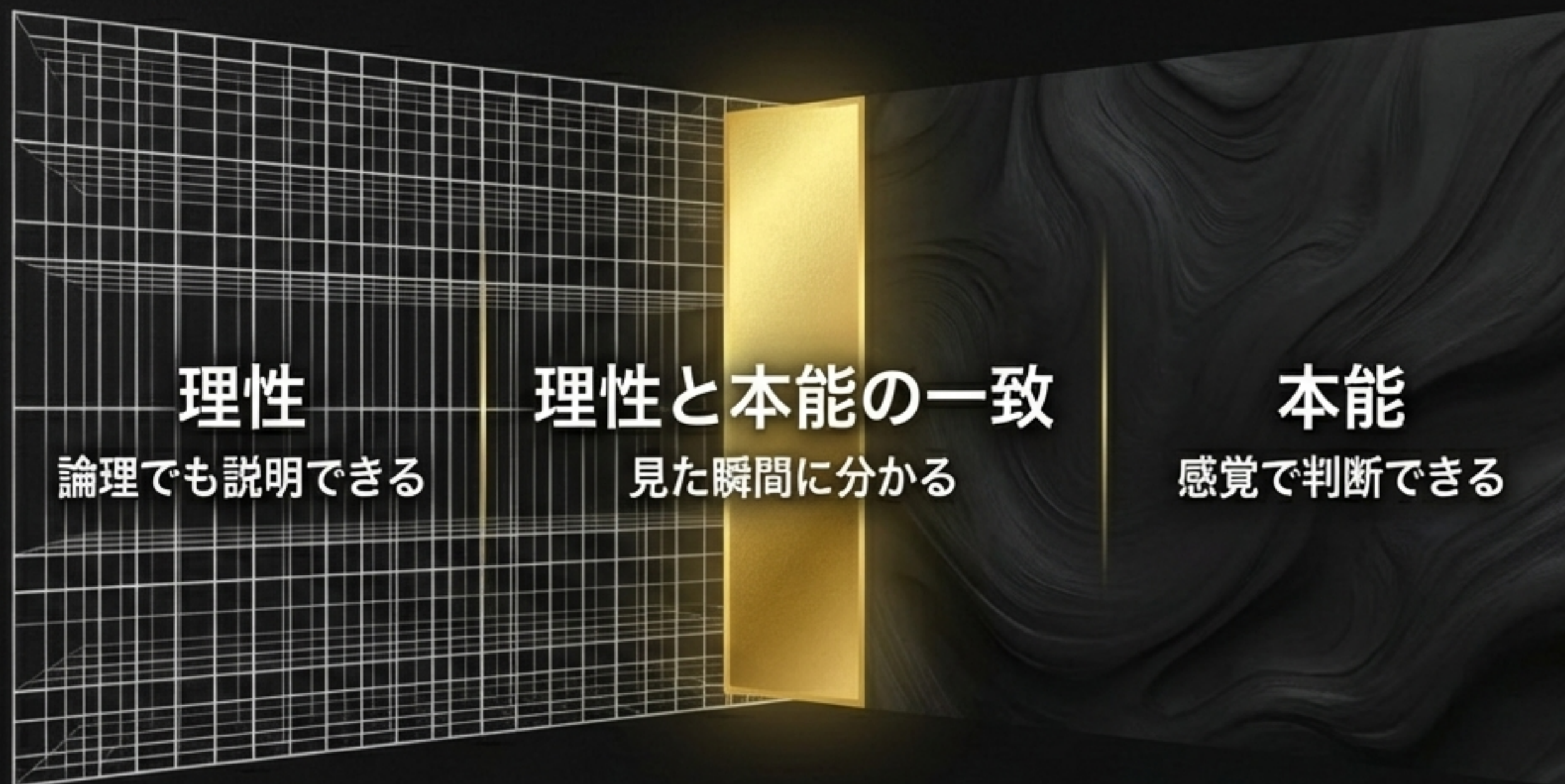


経験でしか到達できない領域



座学や言葉だけでは不十分。
言葉ではなく感覚で理解すること。
これが情報に振り回されない唯一のフィルターとなる。

目利きの完成形：理性と本能の一致



「目利き」の最終到達点。それは、論理的な裏付けと、身体的な感覚が完全に重なり合った状態です。瞬時の判断が、常に本質を射抜くようになります。

目利きが人生を整える



無駄に消耗しない。選択に迷わない。価格に振り回されない。
そして結果として、豊かさが持続する。

整えるべきは「目」である。

情報ではなく経験で学び、言葉ではなく感覚で理解する。
それができる者だけが、この時代を静かに、そして確実に勝ち続けていく。